

雑草こぼれ話

●フキの雄株・雌株ご存知ですか？

廣田伸七

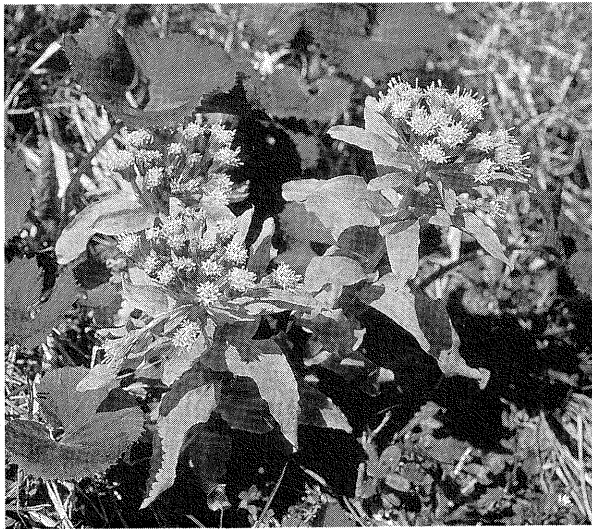
節分を過ぎると暖地の南斜面の土手にはフキノトウが顔を出してきます。フキノトウは昔から春の訪れを告げる山菜として親しまれています。最近は温室栽培のフキノトウが暮れからスーパーなどに出回っていますがフキノトウの本当の香りと味は寒地で雪が融けると同時に出てくるものが最高でフキ味噌、天ぷら、お浸しなどで食べると香りとほろ苦い春の味覚を満喫できます。フキは大きくなった葉柄も食用になりますが葉柄と比べてフキノトウはカロリーで3倍、ビタミンCが5倍、鉄分が10倍と栄養価満点です。

ところでフキはキク科では珍しい雌雄異株です。フキノトウの形も似ていますし、夏の葉や葉柄も全く同じ姿、形で雌株、雄株を見分けることは全くできません。雌株、雄株を見分けられるのは春先のフ

キノトウの花が咲く時期です。まずはじめの頃は雌株の花は白色で、それに対して雄株は花粉をたくさん出して黄白色に見えます。(写真がカラーでなくてゴメンなさい) やがて花茎が伸びてくると雌株では高さ30cmぐらいになり茎先に写真のように白い冠毛をつけた種子が多数つき種子は風で飛んでいきます。雄株は花粉を出す役目が終り花茎も雌株の半分位の高さでやがて枯れていきます。つまり雌株は花が白色で花茎が高い。雄株の花は黄白色で花茎が低い。このフキノトウの時期が雌と雄がはっきりと区別できます。やがて葉が出てくると区別はできません。因みにフキの語源は葉が丸く大きく、軟らかいので、昔の人はこれでお尻を拭いたことから「尻拭き」。これが略されて「拭き」フキとなったという説があります。



▲雌株の花は白く花茎は30cmぐらいと高い



▲雄株の花は黄白色で花茎は雌株の約半分ぐらいと低い

財団法人 日本植物調節剤研究協会
東京都台東区台東1丁目26番6号
電話 (03)3832-4188 (代)
FAX (03)3833-1807
<http://www.japr.or.jp/>

編集人 日本植物調節剤研究協会 会長 小林 仁
発行人 植調編集印刷事務所 広田 伸七

東京都台東区台東1-26-6 全国農村教育協会
発行所 植調編集印刷事務所
電話 (03)3833-1821 (代)
FAX (03)3833-1665
E-mail: hon@zennokyo.co.jp

平成18年2月発行 定価525円(本体500円+消費税25円)

植調第39巻第11号

(送料 270円)

印刷所 新成印刷(有)